

マトリカリア
Tanacetum (Matricaria) parthenium
 (キク科)

旧属名のマトリカリア (*Matricaria*) で流通しているが、現在はタナケツム (*Tanacetum*) 属、秋まきの宿根草 (園芸では1年草扱い) であるが周年出荷されている。一重で芯が黄色のシングルペグモが代表品種で、流通量の70%を占めるので、シングルペグモの品種名で流通することが多い。ハーブのカモミール (カミツレ)、英名ではフィーバーフューの仲間。一見小ギク風であるが、茎が軟らかく、花首が垂れやすい。葉が弱く、下葉が黄化する。

日持ち終了の主な症状は、花弁 (舌状花) の萎凋、葉の黄変である。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
小花の萎凋	A: 花弁に張りがある B: 花弁 (舌状花) が外向きにそりはじめる C: 花弁 (舌状花) がやや褐変と萎凋し、垂れはじめる D: 花弁 (舌状花) が褐変し、萎凋する	
開花程度	B: Bの小花が発生 C: B, Cの小花が発生するが、開花小花の1/3未満 D: C, Dの小花が1/3以上	
葉の黄変萎凋	A: 黄変、褐変の発生がない (緑色) B: 下位葉に黄変が発生する C: 中位葉にも黄変が発生し、下位葉には褐変し、萎凋する D: 1/2の葉が黄変または褐変し、萎凋する	
その他	筒状花の開花と花粉の落下	開花の進行に並行して、筒状花も外側から開葯する。小花のC, Dでは筒状花はすべて開葯が終了している。

2) 留意点

入荷時には20~30%が蕾の状態で、開花していない。

下葉が水につからないように取り去る。

吸水の不良で花首が垂れることがある。

3) 開花



4) チェック事項

小花の萎凋

